



日本人の健康は、大丈夫か 氷山の一角？

今が一番寒い頃。経済状態も悪いのでいっそう寒さがこたえる。今日現在が、踏ん張り所で、胸突き八丁の峠を登らないといけなのですね。あちらこちらから、何とかして欲しいという悲鳴が聞こえて来る。

1. ブランド商品「雪印」の罪

牛乳に続き牛肉へと社会問題を起こしている。食べ物だけに注意の上にも厳重な体制が必要なはずである。どうも故意に詐欺行為をしていたようである。名門の会社も社会的存立意義が無くなった。廃業するしかないだろう。実際は、合併する方向らしいが・・・。

表示をごまかせば、消費者はだまされる。肉にかぎらず、他の商品も混ぜてしまえば分からなくなる物も多い。生産量の数倍ものブランド米のこしひかりが販売されているというような実態もあった。私の記憶では、有名デパートの三越でも偽ブランドを売っていたことがあった。

ブランドであろうが、零細企業の商品であろうが、ごまかすかどうかは、商人（企業）の姿勢の問題である。する者はするし、しない者はしない。企業倫理に、帰結するのだ。

しかしながら、雪印食品にも少しの言い分はあるだろう。狂牛病さわぎで肉が売れなくなり、企業の存立そのものが現実の問題となったので、背に腹は代えられなくて、ついやってしまったということだろう。「盗人にも三分の理あり」ということわざ通りだ。狂牛病については、国の対応が非常にまずい。国民の健康に影響するような事柄については、疑わしきは罰する方針でやってもらわないと、安心して食べるわけにもいかない。

ところで、食品には、輸入品が多いのだが、外国人の方々は、日本人が食べるのだから、と、いいかげんな餌や肥料によりできた商品ではないでしょうか？輸入業者や監督官庁は、十分な監視をして欲しいものだ。ある輸入業者は、品質管理はよいと太鼓判を押していた。すべてがそうともいえないでしょうから。雪印が槍玉に挙がっているが、他の企業も後ろめたいところは、一切無い、と言い切れるのでしょうか。氷山の一角にならなければよいのだが……。杞憂で終ることを願っています。まだまだこの問題は、尾を引くでしょう。

2. 金欠の公共団体財政

とにかく、岡山県・岡山市等においては、本当にお金がないらしい。人件費の占める割合が高く、新規事業をしたくても難しい現状のようです。倉敷市においても同様の傾向を示しているものと考えられますが、いかがでしょうか。

公務員は、年功序列賃金制を採用している優遇された職場です。太陽は、毎日、間違いなく「東から昇り西に沈む」とたかをくくっていたのは、昔のことで、昨今は意識改革が進み、仕事に熱が入り夜遅くまで、時には休日も出勤して精を出しています。公務員さんは、コスト意識の欠如とランニングコストや減価償却について無頓着な面があり、器は、立派なもののできたのですが、維持管理の経費に根をあげているのが現状なのです。

私は、道路などの公共事業は、積極的にやるべきだと考えています。財産として残るため、後輩である子供や孫の世代の人が利益を享受するのですから、結構なことだと思います。

例えば、旭川ダムの県道（落合町から建部町福渡を結ぶ）は、ずいぶん改良されています。一昔前から見れば、良くなっています。これなどは、公共事業の成果として誇れるものでしょう。

これからは、従来あまり考えていなかった事業、たとえば、介護などにずいぶんお金がかかります。介護は、元気になってもともとで、形としては残らないものですから、公共事業としてやる仕事かどうか疑問も残るのですが、核家族化が進むことにより保育所が必要となり、また、老人のためのデイケアも必要になりました。学生の不良化にも影響が大きいのではないかと思います。やはり、大家族制度が復活する方がよいのかもしれませんが、老人と幼児や子供が一緒に施設で遊び学ぶような複合形態の施設が必要なのではないでしょうか。

いずれにせよ、金がないから仕事をしないというわけにはいきませんから、金がないなら民間の資金を活用する方向性を打ち出すことが大切でしょう。

いまPFIとか、定期借地権制度とか、新しい手法を取り入れることが検討されています。これからの、公共団体は、県民・市民などにサービスを与える企業体とならなければなりません。

私は、岡山市の総合政策審議会の部会において、将来を見越した市政運営について活発に議論をしているところで、中期ビジョンに取り入れられた事項もあります。公共団体は、予算規模の大きな金持ちの企業体であることを忘れてはいけません。

とにかく、これからは、役所も民間企業と同様に、「コスト意識」と「顧客満足」に徹して欲しいのです。

3 . 中国古典に学ぶ

中国5千年の歴史にあって、聖徳太子の頃から、すでに「論語」をはじめ中国の思想文献が、日本に渡ってきて、長い間盛んに勉強されてきた。しかし、最近、さっぱり中国の古典が読まれなくなっただけではない。中国古典の素養がないことが、現在の政財界の混乱をまねいている原因かもしれない。いわゆる漢文である。

中国古典を少し読む機会があった。別段、難しいことを言っているわけではないが、確かに為になることが多い。中国文学の特色は、概ね次の三点にしばられるようだ。

政治論

経世済民（けいせいさいみん）。すなわち、世を修め、民を救うという思想。政治をする者は、先憂後楽（せんゆうこうらく）の精神で政治をしなければならないという理想的発想である。

人間関係論

応対辞令（おうたいじれい）の学問である。すなわち、人間関係の対応の仕方、言葉づかいを論じている。その極めつけは、不即不離（ふそくふり）すなわち、人間関係には、距離感があるということ。

リーダー論

修己治人（しゅうこちじん）。すなわち、上に立つ者は、自分を磨くことが大切だということ。そのためには、以下のような要因が必要である。

「智」……深い読みの洞察力がある。事上磨鎌（じじょうまれん）することにより仕事を通じて自らを磨くこと。

「仁」……思いやりをもって、決断すること。

「勇」……リーダーは孤独だが、撤退の決断も必要である。

「謙」……厳しき中にも、包容力を持つこと。

「信」……嘘をつかない。人を見抜く力を養うこと。人を判断するための3原則は、顔つき、発言、行動によりほぼわかる。やすうけあいをしないこと。

「義」……人間として、当然守るべき道。

「利」……利益を追求するときは、正しいことを前提に行うこと。

などなどである。

最後に人生訓として流れている人生観は、「人生如朝露」「人生似幻化」すなわち、人生は短いようで長く、長いようで短いからせいぜい人生を楽しみながら仕事をしようということに尽きる。仕事と遊びや楽しみのバランスの問題である。

堀場製作所の社是「おもしろ、おかしく」と合い通じる思想的流れがある。しかしながら、私は、そういう心境に達するには、まだ修業が足りません。小泉総理の引用する言葉は、単なる受け売りでなければ良いのですが・・・。

今回はこの辺で失礼します。読んでいただきありがとうございました。

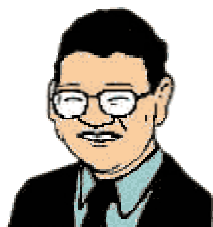
以上

事務所：岡山県岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送K S B会館4F

TEL：086(222)6591

FAX：086(223)5839



地方の時代の実現にむけて 岡山市と倉敷市は連携を

すでに、県北や島根県方面では田植えが済んでいた。日本海は瀬戸内海にない雄大さがある。日本の国土は、海と山の自然に恵まれているから人工的に自然を破壊してはならない。それにしても、大山の崩落はなんとかならないものか。

1 . 罪を憎んで、人を憎まず。

この原稿が遅延した理由の一つに、日本経済新聞社の『私の履歴書』に作曲家の船村徹氏の一代記が掲載されていて、ついつい読んでいたら感動してしまったため、何か参考になることはないかと思いつつ日が経過したのです。すみませんでした。

演歌（はやり歌）の本質はなんだろうかと思う。年を重ねるに従って、自分の人生経験とダブって他人様の人生模様がなんだかわかるようになってくるものだ。私の若い頃は、頑固で一途にガムシャラだったため、角（かど）のある人と評価されていましたが、年をとるに従って、だいが円（まる）くなり、女心も少しばかりわかるようになってきた。

船村メロディーは、波瀾万丈の浮き沈みのある人間的な幅が広く深遠な人生航路が基盤にある。今の末期的症状の日本を救うには、船村氏のような人がものごとの本質を極めた郷土、友情、日本語を大切にす対策や解決策が必要だろう。

青少年の乱れた日常生活を正すには、どんな立派な学者諸氏より船村先生の歌のほうが説得力があり、非行から立ち直らせることができるのではないのでしょうか。先生にとっては、実入りは悪いかも知れないが、そんなにお金があっても使いきれものではないでしょうから、これからは、全国を世直しの行脚に情熱を燃やしていただくのも、70歳以降の残された人生にとって社会貢献ができて、いいことのようにも思いますがいかがでしょうか。人生で大切なことは自分流に“充実”させることと思う。

2．倉敷市は、岡山市より全国区なり！

昨年末、(社)日本不動産学会の秋季大会が倉敷市で行われた。

中田市長も歓迎のあいさつをされ、私と両備の小嶋社長がパネルディスカッション「定期借地借家権と街づくり」のパネリストとして参画した。

学術関係などが全国大会を開催する場合、やはり美観地区があって有名な倉敷市の方が候補地として、岡山市よりは優勢であるように思う。ただ、受け入れ体制がもうひとつかもしれない。また、美観地区の周辺地域が変化や変遷に乏しく、リピーターには魅力が少ない点もある。

ところで、チボリ公園は、高谷社長に変わってから改革に取り組んでいる。年中無休(ただし、2月に5日程は休む)の体制になった。当然の事である。朝10時から夜10時まで開園とのこと。夕食目的で来る人を、夜間は当てにしているようだ。私は、全国区という観点から、積極的に会議の開催などを倉敷市内やチボリ公園内で受け入れたらと思う。また、大原美術館との連携を密にすべきである。大原美術館は、基本的には、見学させるだけだからアルバイト要員で間合う面もある。中無休でやれるはずだ。両者が歩調を合わせるべきだ。また、チボリ公園内に温泉を掘って、保養施設を作るのも将来的には楽しみが増えて良いのではないだろうか。いろいろ方策はあるだろう。みんなが知恵を出し合って、岡山県や倉敷市を盛り上げる必要がある。

また、四市が合併して出来上がった倉敷市だが、互いに溶け合っていない面が見受けられる。玉島、水島、児島、倉敷という具合に、いまだそれぞれが独立している観がある。岡山市を含めた広域県南都市構想もある。市町村合併が実際にできなくても、広域的なつながりは可能だし、ぜひ実現しなければならない。交通、文化、経済など、多面的な取り組みが、これからの岡山発展のために、なければならないだろう。

3．国益と亡命

人が極限の状態に追い込まれた場合にとる行動は、どのような形になるか。それは、姿を隠すことだ。日本人は、自殺か夜逃げしかない社会で暮らしているが、世界は、亡命という行為が許されている。祖国を捨てることである。

今度、中国の瀋陽で日本総領事館への亡命騒ぎは、日本人がやらない亡命という行為が外国では頻繁に行われていることを国民にしらしめたことに意義がある。大使館内は、日本の支配権が及ぶ所であり、不可侵権(治外法権)があることは常識であるから、それに対応する行動を大使館員はとるべきだったが、なんだか、中国側の行為を認めるような態度だったため、日本の外交姿勢がはっきりしないことを如実に示してくれた。国及び国民

の利益を守るのが国家たる使命である、外務省はじめ総理大臣は、外国から声高にいろいろ言われれば、おもねる態度に出る。また、へこへこなびくのである。こういう対応の仕方は、非常にまずい。

国の為に、毅然たる態度を取るべきである。今回はビデオが放映されたから、言い逃れができず、煮えきらない。中国が悪者にされたことに、中国側は怒っているのだ。もし、何も残ってなかったら、しらを通していただろう。“偏差値秀才”は、意外ともろいのである。教育のあり方を考えなければならないし、公務員の採用試験制度も見直す必要があるのではないか。岡山市は、年齢制限を外して社会経験のある人を採用する方針を打ち出したが、良いことである。公務員はサービス業の最たるものであるからだ。

知識過剰に片寄り過ぎて、人間的魅力が足りない人が多過ぎる。不動産業にたずさわる人は、知識をひけらかすとマイナスになる。調整能力が必須条件といえる。顧客満足に徹することでしょう。

4 . 中心市街地の活性化

岡山市は、中期ビジョンにより定住構想を推進すべく真摯に取り組んでいる。例えば、学校跡地に定期借地権付きマンションを建てる予定があり、公共施設などと抱合せでお年寄りと保育を兼ねた施設も考えており、小児科などの併設も考慮にいられている。土地は市が提供し、建物は、民間資本を活用するいわゆるP・F・Iによるプロポーザル方式で進めたい意向のようである。

岡山市中心部には、多くの空き地があるが、民間が先導して定期借地権付きマンションをやらないから、市が先例を作り、民間にもやってもらうという算段である。思うに、中心部はインフラが充実していて、生活環境はよいから移り住みたい人も多い。ところが、一戸建住宅の場合は、平均30坪以上はあるし、家具・調度品もそれなりにある。そういう人が住家を変える場合に30坪に満たないマンションでは、家具等の処分から始めなくてはならず、変わるに変わらないのである。移転には、決断がいるのである。

マンションは、環境が良く、坪数があり、50年以上持つような質が良ければ、高くとも売れるはず。定期借地権を利用すれば、総額も安くなるから、手に入りやすくなる。岡山市では、土地が安くなったため分譲マンションのラッシュであるが、広さが中途半端であると思う。資産価値を高める努力がいるのではないかと考える。

住宅の量は十分にある。良質のものがこれからは要求される。21世紀は、少子化の時代であることが根底に流れていることを忘れないことだ。

ひるがえって、倉敷市の場合、借地関係が多い面も認められるが、倉敷駅に近いところで商店街をなさなくなった場所は、定期借地権付きマンションなどに移行すべきではない

かと考える。チボリ公園と美観地区とを結ぶ間を、もっと回遊性を持たせ、土地の高度利用を進める必要もあるのではないのでしょうか。再開発事業が進行中とのことですが……。大原・大橋・井上邸などの国指定文化財と調和させながら、新陳代謝により、生き物である街づくりをしなければならないでしょう。

5 . 日本経済団体連合会が発足

経団連と日経連が統合されたことにより、経済同友会及び日本商工会議所と経済界は三本柱になった。経済の事は財界に任せて欲しいという意気込みが欲しい。政治は政治家が本気で考える。政治に経済の事を期待すると、ひも付きになり、献金問題が生じる。財界の地盤沈下にけじめをかけるのが狙いとのことだが、経済状態が悪化しているため、加盟会社が減少して、財政状態が悪くなってきたのも事実であろう。いずれの協会や団体においても、魅力や利益がなければ経費削減の対象となり、退会が新規入会より多くなる。会員増強は発想の転換をしなければ難しいことも事実である。しかし現実には増加している勝組があるのも事実だ。いずれにせよ、トヨタ自動車会長の奥田碩（ひろし）初代会長さんには、大変な難局の時ではあるが、粉骨砕身の努力で日本経済を立て直して下さい。なお、経済同友会は個人の集合体で、提言機関である。自由に発言できる雰囲気の魅力である。したがって、私のようなものでも岡山経済同友会で発言しても、受け入れてもらっている。助かっています。

平成14年5月29日記す

事務所：岡山県岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送KSB会館4F

TEL：086(222)6591

FAX：086(223)5839



全国一の値下がりは本当か！ 岡山は魅力がないの？

ヒートアイランド現象も手伝ってか、毎年暑さが増すようです。岡山の暑さは全国的にみても上位にあります。客待ちのタクシーは冷房を切れば良いのにとと思いますが、いかがでしょうか？

1. 健康と寿命

全学連の闘士藤本さん（歌手加藤登紀子の夫）が還暦をむかえずに死亡。新聞の記事をみて、ちょっと驚いた。有機農法の実践者であったのに、皮肉なものです。野菜中心の生活で、免疫が弱っていたのかも知れません。

私の中学校の同級生の女性（美しい人でした）も、食べ物には結構うるさく、野菜に凝っていたのに、少し前に亡くなりました。寿命でしょうか。日本人の平均寿命は世界一とのことですが、ただ生きているだけでは情けないと思います。生きているという存在感が欲しい。

私の母は、88歳の時に、四国のお遍路の88か所にお参りしたいと言い出しました。1年半程度で全行程を車で廻りました。その後、西国33か所にも行きました。親から見れば、いつまで経っても子供は子供。

「憎まれっ子世にはばかる」とも言います。私は長生き出来る遺伝子を受け継いでいれば、90歳以上は大丈夫でしょう。

私は、変な自信を持っています。出血性ショックで気を失ったことがあり、病院内ですぐ治療してもらえて生き残りましたが、外で出血していたら死んでいたそうです。特攻隊の気分で、一度死んだのだからと妙に達観しています。世間様に迷惑をかけなければ、好きなことをしたい。世の中に何か残すことが出来ればと考えています。

先日、前県知事だった人と思われる（自信はないのですが、たぶん間違いないでしょう）御姿を御見受けしましたが、知事当時との落差が余りにも大きくびっくりしました。年相応なのかも知れませんが、現役の時は飛ぶ鳥を落とす勢いで、怖い感じの人でしたが、人間から迫力が無くなり、よぼよぼしている姿を見れば、何とも言えない時代の移り変わりとしんしい気持ちになりました。渥美清さんは死ぬまで身内以外の人と会わなかったそうです。

その気持が分かるような気がします。特に“華”を売るような俳優は、イメージが大切ですから…。

若いときの理想の女性（男性）とは、昔の姿で頭の中にインプットしておく方が、がっかりしなくて良いのかも知れません。私は、同窓会のたぐいには、できるだけ顔を出さないようにしています。夢が壊れるのがつらいからです。

やはり健康で仕事をし、緊張感のある人生がいいようです。定年後も、何かライフワークを持ちましょう。自己責任の世界ですから、自分からいつまでも何かをする気持が大切でしょう。死ぬときに自分の人生を振り返ってみて、“満足のできる人生であった”といえるような一生にしたいものです。

2. I・T導入とリストラ

I・T（インホメーション・テクノロジー）が我々の生活に入ってそんなに長い年月は経っていないのだが、道路や電話などと同じようにインフラ（基盤整備）として、避けて通れない問題になっている。後戻りはありえない。

この度、住民基本台帳ネットワークシステム（住基ネット）が稼働を始めた。反対の論争がある。個人情報保護の観点からだ。多少の情報漏れがあっても、便利な方が良いという人が多いだろうと思うのだが、そう単純でもないから、世の中はややこしい。住基ネットを導入するには、膨大なお金がたぎ込まれて、公務員の手作業からの開放が最大のメリットなのだ。したがって、これらの導入により、従来的人员は、要らなくなる点を見逃してはならない。公務員は、インフラとしてのコンピューターやパソコンなどを先を急いで導入し、何か良いことをしているような錯覚に基づいて、誇らしげに自慢している。人減らしをするということはいっこうに言わない。機械を採り入れて便利になるということは、人手が要らなくなるということで、本来リストラをしなければ意味がないのです。民間では、人に代わってロボットを入れたり、さらに、通信のインフラ導入により、リストラを行って効率化に努めているのに。

すなわち、I・T事業というインフラの導入は、リストラに繋がるのでなければ公金の無駄遣いで終わってしまうのだ。公務員を半分にしても、従来通りの仕事をやって行けるのではないのでしょうか。民間よりも少し余裕をもたせた人員構成を考えてもだ。公共事業を悪者にして縮小するより、人減らしの方が先行されなければならないのだが、あまりこういう話は議論のテーブルに乗らない。本質を捕らえた行政改革論争の方が先だと思うのだが…。

どのようなセキュリティをしてもインターネットやコンピューターが、絶対に情報漏れしないということはありません。最高レベルI・Tの仕事に携わっている東大の大学院の教授が断言しているのだから、間違いはないはず。利便性を追求する限り、ついてまわるの

が秘密漏洩なのである。こういう認識の上に立って冷静に見極める必要がある。すべてが満足されるということはありません。

3 . 不良債権と土地の値下がり

先日、相続税の路線価が発表され、岡山が全国で一番下落率が高かったため、なぜ岡山が全国一なのかという質問を受けている。

不動産鑑定士は、政策マンでなく実態を反映させるのが本来の仕事であるが、公的評価の一元化により、あくまでも基本のベースは、公示価格が中心になって関連づけられていることは間違いない。不動産鑑定士が価格決定に関与しているのは事実である。したがって、他人ごとではすまされない。真剣に受け止めて、全国一の値下がりの原因を分析しなければならぬ。

これから記述することは、私個人の考え（私見）であり、鑑定協会の公式見解ではないことを前提に、私の思いのたけを述べてみます。

いろいろな要因が、複雑に絡んでいる問題で難しい命題ですが、一口に言えば、岡山に“魅力が足りない”ということでしょう。県南地域は平野が多く、“ただ広い”ため、のんびりと広々と分散し密度が薄いということが言える。郊外を走ってみれば、路線沿いに何でもそろそろ店舗が並んでいるので、わざわざ中心部の市街地まで行く必要がない。よほど中心部に人を集める仕掛けをしないと人が集まらないだろう。

先日、岡山市の市役所筋で「おかやま桃太郎まつり」が行われた。多くの人が集まって見物や買もの等をしていた。やはり何か“しかけ”をすれば、人は集まるのである。

また、中心部に会社や事務所その他人が集まるような場所などを高密度で集中しなければならぬ。分散型はダメなのである。

富士山のように高い所があれば、裾野が広がるのである。丘のような商圈を形成する限り、一点集中型の経済活動は無縁となり中心部の繁華性がなえることになる。土地を高層利用することだ。土地は公的な側面があるから「わしの土地だから、わしの好きなように利用する」というわけには行かない。1階及び2階は駐車場として経営し、3階以上はマンションや事務所に利用するというような土地の高層な有効活用をすることが大切だ。定期借地権の利用も良い。

銀行にも進言しているところだが、駅前の一等地に低層ビルで3時には店舗を閉めるようなことでは、街の活性化をそぐようなものだ。金融機関は、金利と手数料稼ぎだけで経営する時代は前近代のやり方である。持っている土地を有効利用して、収益をあげることも重要で、そういう努力をした上で、不良債権処理のために国の公的資金投入を受けるべ

きであろう。

岡山は特に自転車が多い街だから、自転車族を大切にすべきであろう。自動車・自転車・歩行者を区別することにより、自転車の買物が楽しくなり、中心部に人が集まるようになる。美術館なども多いのに十分に活用されていない。観光客を受け入れる体制をもっと整備するようにしなければならない。土地が値下がりすれば、不良債権が増大する。不良債権が多くなれば、土地の値下がり誘引して進行し下落率が大きくなる。イタチごっこである。これを断ちきる必要がある。そのためには知恵が必要。汗と血を流す覚悟がいる。

4 . チボリ公園と人徳

高谷（たかや）社長になってから、チボリ公園が大きく変わりつつある。岡山県内の企業500社以上が応援団を結成して、チボリ公園を積極的に利用する運動を始めた。

私は高谷さんと面識があり、かわいがってもらっている。いいたいことを進言もしている。もう少し時間が経てば、チボリ公園はいいパブリックな公園になるであろう。県民の中には、あまり良くいわない人も結構いるようであるが、チボリ公園の誘致方法等に対する悪いイメージが尾を引いている面もある。

しかし、みんな一所懸命に努力しているのだから、温かい気持で盛り上げてやるという器量もいると思うがいかがでしょうか。

やはり、高谷さんの人柄によるところが大きい。500社以上のサポートはなかなか集まりません。人徳と言えるでしょう。

ところで、新しい入場券として1年間有効なカードを発売している。1万円を投資する必要が生じますが、プレゼントにはいいかもしれません。倉敷のみなさんは積極的に利用してあげてください。

チボリ公園の宣伝の片棒をかつぐことになりましたが、大原美術館との連携を深めて、抱合せで人を呼び宿泊型の観光地にする仕掛けが必要でしょう。

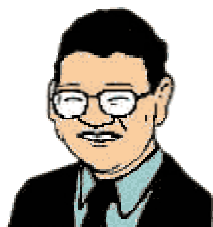
平成14年8月7日記す

事務所：岡山県岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送KSB会館4F

TEL：086(222)6591

FAX：086(223)5839



資産デフレは、税制改革で浮上を 金融及び財政の出動は効果は少ない

今年も 1 ヶ月足らず。紅葉もあとわずかで冬へと……。年賀状やカレンダーが発売されているが、まだ実感がわからない。年末に向けて老舗の倒産が気にかかる。なんとかしてほしいという悲鳴の聲が聞こえて来る。ほんとうに……。

1. 信念が、立派な発言を生む。

「拉致(らち)」というほとんど使わない言葉がマスコミで踊っている。「むりやり連れていく」という意味らしい。北朝鮮はそれなりの理屈を述べて、自らを正当化している。早急にザンゲしたほうが、日朝間の友好につながると思うが……。

私が感心するのは、家族の人達の発言だ。風貌からして、ほとんどマスコミで話をしたことがないような人が、しっかりとした口調で、堂々と心情を吐露されている。人は「信念と情熱」があれば、強く人に訴え、感動を与える言葉で話せるものである。

にもかかわらず、総理や大臣はマスコミが記事にしたり、放映したりすると「言ったとか、言わないとか」分けの分からぬ喧嘩をする。重要な立場にある人が、やっちなことを、べらべらしゃべり過ぎるのだ。慎重に発言すべきである。残念ながら、こういう状態が起こりだすと、小泉政権の末期が近づいた前兆現象のような気がする。話し方が曖昧模糊とした説明であるから、誤解されて報道されるのだろう。

いわゆるコメンテーターという人が、テレビなどでいろいろ発言するが、何でもかんでも思い付きを言っているのではと思うこともある。特に、経済評論家といわれるような人は、予測の話を堂々として、外れても涼しい顔で、たびたびテレビなどに登場するが、責任を感じない目立ちたがり屋は、退場してもらう必要がある。

政治家は、選挙の洗礼を受け、組閣替えなどでクビを賭けているから、非難されるほど無責任ではないのであろう。

2. 予想を超す講習受講者

先般、私が理事長をしている中国定期借地借家権推進機構が無料講演会を岡山市で行った。まずまずの入場でした。やはり、行う曜日も考慮しないと集まりに影響するようです。金曜日は、土・日の連休前で行事が多くて集まりが今一つ。やはり、火曜日か木曜日あたりがよさそうです。参考までに。

縁起でもないが、死ぬのも連休中は連絡が取れずダメ。葬式も曜日を考えないと休暇などと時間がバッティングするから死後の事も考えてあげる親切心がいるかもしれない。

ところで、はじめての試みとして、「定期借地借家権アドバイザーの資格認定講座」を大阪で近畿定借機構の主催で、11月25日(月)と同月26日(火)の2日間行う。中国定借機構等も協賛している。講習料は2万円(会員等1万円)。最初1,000人以上集めるとの事だったので、半信半疑でそんなに講習に来るだろうかと思っていたが、すでに1,200人を超えている模様。中国地区からは、40人程度の参加申込みがある。

定期借地借家権制度は、地方ではもうひとつ浸透していないが、不況の中、官庁(公共団体含む)が積極的である。流通センターや工業団地あるいは住宅団地などを定期借地権付で貸す方針を打ち出しているところは多い。民間では、事業用定期借地が定着しているが、住宅地については遅々とし進んでいない。本当に制度を熟成させるには、相続などの税制面で優遇策が基本的に打ち出される必要がある。

中国地方では、私の知る限り、岡山市が最初に流通工業団地で先陣を切って、先例や通達などを考慮せず、思い切って市長が決断して行った。岡山市が一人勝ちになった。みんな渡れば怖くないということで岡山県を初め、各県でも定借導入に踏み切ったところである。世の中が変われば、法律も変わる。伝聞では、法改正の方向で、公有地拡大法も動いているとのことだ。

宣伝になって申し訳ないが、岡山市に定期借地権制度の導入の入れ知恵をしたことと、中国銀行に全国に先立ち定期借地権への制度融資の確立をさせたのは、私だった。先見の明があったといえると自画自賛しているが・・・。

大阪で講習を受けたい人も、5年後10年後を見越して先行投資(自分への設備投資)である。不況の中においても、心の余裕は欲しいものである。時代の流れは、“着実に所有から利用へ”と進行している。人の気持も変化し、経済状況からそうならざるを得なくなってきている現実をしっかりと認識かつ把握する必要がある。

3 . 仕事は忙しい人に頼む

人間は、暇なときにははるくなことを考えないものだ。忙しいときこそいい知恵も湧くし、事務処理もテキパキとできるものなのである。

他人からみれば、私は忙しい人のように思われているらしくて、相手から見てたいしたことではないと思われる話や仕事は、私に言いにくいという雰囲気があるらしい。しかし、そんなことはない。従業員もいれば、それなりの各方面への人脈もあるから、電話一本で情報収集も可能である。

また、会議・勉強会・講演会の類には、時間が取れる限り優先的に出席し、発言もしている。自己の向上心を高めることもできる。

知人の経営者は、非常に御多忙と思われる方なのに決断と処理が非常に早い。ゆっくりと、考えておくなど言っていたら仕事が溜ってどうにもならなくなるからだろう。

したがって、用事はできるだけ忙しい人に頼むようにしている。そうすれば、全体の流れがスムーズにいくことになる。

365日、24時間勤務の心掛けで社長や幹部は対応し、スピードに乗り遅れないようにしなければならない。先見力と洞察力で先を読み、設備投資をして、スピードを加速しなければならぬ。

4 . ノーベル賞田中耕一さんに学ぶ

仕事の偉業は大変に立派でも、人間的にはどこにでもいるただの人がいいと思う。ノーベル賞受賞となれば大学のポス的な偉い先生か、著名な作家や政治家などである。

しかし、普通の人に受賞させたスエーデンの王立アカデミーの決断は立派である。まず日本では、邪魔が入り権威主義支配のため田中耕一さんクラスでは無理だ。文化勲章や文化功労者などたくさんの荣誉に輝いて、本人が一番面食らっているのではないかな。

実験の好きな人だから、そろそろ静かにして、研究させてあげたらと思う。ヤジ馬根性のマスコミの扱いからも、そのうち話題にもならなくなるだろう。

私が良いと思うことは、いばらず、会社に報奨金も要求しなかったことが会社経営者としては嬉しい。発光ダイオードとかいうものを発見して、会社はボロ儲けしているから数十億円をくれと訴訟する人もいるが、確かに見返りは、それなりのものを出してやるのが、意欲を鼓舞させることになり大切だ。

しかし、特許は自分のものと主張するにいたっては、会社は月給を払い研究費をかけて、成果は持ち逃げされては、あほらしくて人は雇えないし、会社は成り立たない。特許を主張する人は、自分で研究室を造って、やればよいのである。

フェローの称号を与えられたが、役員待遇を断わり、2階級特進でよいと慎ましく考えるのは、すがすがしい。あんまり欲張り、威張ると島津製作所内で“やっかみ”も生じる。

実験の成果は、天才ときちがいは紙一重と同じで、大部分は運で、あり、同じ研究をやっている人は多く、誰かが頭ひとつ抜きんでいるかの相違だからだ。だれでも考えることは、(ノーベル賞をもらえるような偉業を除けば)似たり寄ったりなのである。

NHKにプロジェクトXという番組があり、苦勞して成功に導いた経緯から、涙なくしては見られないものになっている。人気がある。もちろん、成功したことが社会や会社へ貢献できて功績が大であることは、評価すべきだ。ただ、失敗した例は、その数倍や数えきれないぐらいあると思われる。やはり成功への美談は、氷山の一角であることに間違いはない。

すべて成功するという保証はないが、成功への道程の努力が、我々一般人に感動を覚えさせるのである。

5. 税制の見直し

不況。倒産。国民の気持が萎縮している。賃下げが行われる。

不良債権処理を急ぐらしい。リストラや倒産により失業者が多くなるだろう。過去に、金融や財政により景気対策を試みたが、ほとんど成果は得られないまま、ずるずると奈落の底へと落ちてきた。

竹中大臣に対する評価は色々だが、住民票を日本とアメリカを往復させたり、大臣在任中に億ションを売却したり、講演料を稼ぐなどせっせと財テクに精進しているらしい。アメリカ型の経済学を信奉する学者だから、ある程度はやむを得ないだろう。また、竹中流は日本をアメリカに売ることにつながるという主張に対し、失われた10年間、日本の国会議員は何もせず、先伸ばしにして無責任だというのが、すべて当たっているとは思わない。バブル崩壊による不良債権は、ほとんど処理済みで、むしろ不況による不良債権が増大している。老舗の倒産などにより、不良債権が減ることはないだろう。今後さらに増え続けることは間違いない。

これからの経済環境を良くするためには、株と不動産が持ち直して上昇し、とにかく動くことである。

まさに、資産デフレであるから株と不動産の資産価値を上昇させることにならなければ不良債権は解決しないだろう。

そのためには税金を思い切って減税(税金の構造改革)することだ。土地を売買した時にかかる税金(不動産取得税、消費税など)が割高なのである。不動産は下落しても、固

定資産税評価額は高値安定のためこれを前提とする不動産取得税は高くなる。よって、不動産を買う気が無くなる。また、不良債権処理によってもっと大量に不動産市場に不動産が出回るので、さらに下落するのではないかと期待感が、不動産投資を鈍らせているのだ。

最後の切り札として、定期借地権の活用をするにも、地主が土地の提供に協力かつ納得しない。地主の気持を動かすには、相続税を減税させる手段を採用するなど、現実的に有効な手法を取れ入れなければならない。

一時的に減収になっても、景気が回復すれば、増税になることは間違いない。目先の話でなく、長期的視野にたった政策、特に、税制面からのアプローチが大切である。金融は行き着くところまで公定歩合が下がっており、手の付けようがない。財政は歳入減により財源不足だから、無い袖は振れぬ。したがって、残された手段は税制からのアプローチしか手が無いのである。

平成14年11月7日 記

事務所：岡山県岡山市大供3丁目1-18

瀬戸内海放送K S B会館4F

TEL：086(222)6591

FAX：086(223)5839